

メッセージアウトライン コロサイ人への手紙 1:15~17 「見えない神のかたち」

当時もてはやされた哲学のひとつにグノーシス主義というものがあつた。これは霊は善であり物質は悪であるという考え方にもとづく。それで神は霊であり、善なるお方であるので、この神が本質的に悪である物質世界を造られるはずがないということになる。それではこの世界はどのようにできたのか。グノーシス哲学者は、善なる神からアイオンという一連の流出物があり、これらの流出物は神から少しづつ遠ざかっており、遠ざかれば遠ざかるほど神を知らないものとなる。そしてひどく遠ざかったものは、神を知らないばかりか神に敵対するものとなる。この神を知らず、神に敵対する流出物こそ、この世界を創造したものであると結論づけた。彼らはこの流出物こそ旧約聖書で言われている神であり、それに対して新約聖書の神こそ真の神であると考えた。このような考え方からキリスト教のあらゆる異端が発生してくる。

パウロはコロサイ教会の人々に対して、このような間違つた考えに振り回されないようにと神の御子キリストについて正しい知識を教える。

[15]「御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です」

教会の中でグノーシス主義の影響を受けた者は、イエスを神とは見ずに神から流出して、この世と神との間に位置する中間的な存在にすぎないと主張していた。しかし、イエスが神でないとするならば、人間の罪の贖い主でも救い主でもないということになる。被造物が被造物を救うことはできない。被造物全体が罪のもとにあつてうめいている。→ローマ8:19~22

これに対してパウロは「御子は見えない神のかたちである」と言い、御子イエスこそ神の唯一の完全にして究極的な啓示であることを示す。

神のかたちに似る者として人間は造られたが、罪を犯すに至ってその目的は損なわれてしまった。

→創世記1:26~27、3章 それゆえその心は神から遠く離れており、人間における神のかたちは損なわれている。しかし御子イエスを見るときに私たちは神がどんなお方かはっきり知ることができる。→ヨハネ1:18,14:9、へブル1:3 神の御子イエス・キリストこそ見えない神を人々に見せる完全なかたち、神の本質の完全な現れなのである。

「造られたすべてのものより先に生まれた方」…このことばをもってキリスト教の異端はキリストは造られたものであり、それゆえ永遠に存在する神ではありえないと主張する。しかし、ここで「先に生まれた方(πρωτογενής)」ということばに注目しなければならない。これは時間とは直接関係のない名誉や栄誉の称号を意味することばである。詩篇89:27では主はダビデに対して「彼をわたしの長子とし、地の王たちのうちの最も高い者としよう」と言われている。彼はエッサイの8番目の息子

で末っ子であった。その彼を主は「わたしの長子としよう」と言われるのである。エレミヤ31:9では、エフライムがイスラエルの長子であると言われている。しかし、エフライムはマナセの弟であり、彼らの父ヨセフもイスラエルの11番目の子であった。それゆえ、時間的順序から言えばダビデもエフライムも決して初子や長子ではない。神が彼らを長子とするとされている本当の意味は、相続者あるいは任命された支配者にするという意味なのである。

パウロの言い方もそれに従ったもので、神が造られたすべての被造物世界全体との関連において御子キリストは万物の相続者、任命された支配者として独自の立場と栄誉が与えられているということを言おうとしているのである。

[16]「なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです」

万物は御子キリストによって造られた。それゆえ御子キリストを造られたもののうちに入れることはできない。グノーシス主義者は神から流出するものの中に、さまざまな権威や力を認め、礼拝することを要求するが、パウロはこの節でそれを完全に否定している。彼は天地万物一切は御子キリストによって造られたと宣言するのである。→創世記1:3,ヨハネ1:1~3

パウロはさらにこの思想を発展させて「万物は御子のために造られたのです」と言う。キリストこそ全宇宙の目的であり終極なのである。→黙示録22:13

[17]「御子は万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています」

ここからは御子の先在性と天地万物が御子によって保持されていることを教えられる。

御子キリストは天地万物を創造されただけではなく、その御力によってそれらを保ち、今に至るまで働いておられる生ける神なのである。

私たちが人間の作り出したまことしやかな思想や哲学ではなく、神のみことばである聖書の広さ深さ真実さをよく学び、神と神の御子イエス・キリストをよく知りまた、愛し、従い、健全な信仰生活をしていくことが大切である。